



第13回
全国

虎舞

TORAMA Festival

フェスティバル

入場
無料

令和6年 2/25[日]

開場 9:30 開演 10:00 終演 14:00(予定)

釜石市民ホールTETTO

虎舞を体験しませんか？

当日、フェスティバル終了後に虎舞体験会を行います。

体験内容：虎舞の踊り方や太鼓のさばき方、虎頭を持つての写真撮影など
料金：1人1,000円 ※事前予約制で、体験会開始前にホール入口で受付します。

問合せ先：釜石観光総合案内所

0193-22-5835 (当日 080-4516-0333)

【主催】(一社)釜石観光物産協会、釜石市 【共催】釜石虎舞保存連合会 【後援】釜石市教育委員会

参加団体・タイムスケジュール

- 10:00～ オープニングセレモニー
- 10:20～ かまいしこども園
- 10:40～ 錦町虎舞
- 11:00～ 平田青虎会
- 11:20～ 鶴住居青年会
- 11:40～ 両石虎舞保存会
- 12:00～ 平磯芸能保存会 (宮城県 気仙沼市)
- 12:25～ 尾崎青友会
- 12:45～ 白浜虎舞好友会
- 13:05～ 向川原虎舞 (大槌町)
- 13:25～ 只越虎舞
- 13:45～ 釜石虎舞保存連合会
- 終演後 虎舞体験会



釜石の観光HP

※イベントの内容を変更・中止する場合があります

【県外出演団体】

平磯芸能保存会（宮城県 気仙沼市）

平磯虎舞の発祥は天保時代にさかのぼり、「打囃・虎舞」が伝承されています。「虎は千里を駆けて千里を帰る」と、出漁の安全・大漁・豊年満作・家内安全を祈願し鎮守の祭礼に欠かせない祭儀とされてきました。明治30年頃、地元日門地区の方が岩手県方面から習い覚えたものを基礎に創意工夫を凝らし、地元鎮守の祭典に奉納されています。戦後一時的に中断されましたが地元の青年有志により蘇り、子どもから大人まで受け継がれています。



【釜石市ほか県内出演団体】

かまいしこども園

コロナ禍を経て、4年ぶりの出演にドキドキワクワクしています。練習の時以外にも、虎舞ごっこをして楽しんでいるくらい虎舞が大好きな子ども達です。年長組19名の力強い虎舞と、年中組17名の元気いっぱいのお囃子で盛り上げます。みなさん、たくさん応援を宜しくお願い致します。

錦町虎舞

錦町虎舞は、昔は門前虎舞と称し、町名が錦町から浜町3丁目と変わりましたが、旧町名のまま「錦町虎舞」と呼んでいます。虎頭も、古くは権現頭（ごんげんがしら）を虎の様に彫刻したものを使用していましたが、大正時代に門前に移住した藤沢氏によって現在の張り子となり、よりリアルなものに変化し活発勇壮に踊れるようになりました。毎年10月に行われる尾崎神社の例祭、6月の綿津見（わたつみ）神社の祭礼供奉（さいれいぐぶ）のほか、各種芸能大会でも披露されていて、現在5団体指定されている市の無形文化財、「釜石虎舞」の一つです。

平田青虎会

起源は明白ではありませんが、約780年前、閉伊頼基（へいよりもと）が武士の士気を鼓舞するため、虎の縫いぐるみをつけさせて踊らせたのが始まりとされています。平田青虎会は、地元の館山（たてやま）神社の祭礼において奉納されるほか、毎年開催される釜石まつりの曳き船や、尾崎神社の市内渡御にも毎回参加しています。踊りは尾崎町虎舞の流れを有する、同じ系統の虎舞であると言われています。

鶴住居青年会

太神楽の拍子を取り入れたようにも思われる趣を持ち、優雅な舞であることから「雌虎（めすとら）」と称されており、手踊りが数多く伝承されているのが特徴です。地元の鶴住神社に奉納する舞であり、鶴住神社例大祭には、御神輿のお供役として参加しています。江戸時代中期に上閉伊郡より伝わったとされています。平成24年、釜石虎舞の一つとして、市の無形文化財に指定されています。

両石虎舞保存会

両石虎舞は、航海の安全と大漁祈願として江戸時代中期から踊り始めたといわれています。両石地区は、津波による被害を被りながら、三陸漁場を臨む漁港として、江戸時代後期には、近代製鉄発祥の橋野高炉より出銑（しゅっせん）の船積場として賑わった漁港でした。祭礼時に岸から岸へ小舟を並べ繋ぐ船橋を御神輿と威勢のよい虎舞や山車等が渡る光景は、活気あふれる浜祭りとして好評でした。

尾崎青友会

尾崎町虎舞は、昔は台村と言われ現在の浜町2丁目に伝わる「尾崎虎舞」が前身です。江戸時代の元禄14年頃、山田町の大沢虎舞から伝えられた松倉虎舞に始まるとされ、漁師達の海上安全と大漁を祈願して奉納されてきました。踊りは、南部藩寿松院年行司支配太神楽より譲り受け、その特徴は、虎に願いを託して漁師町らしい浜っ子気質の威勢の良い独特の囃子と虎の猛々しい生態を表した舞で、演目には矢車、跳ね虎、笹喰みの他に龍虎舞や刺鳥舞なども受け継がれています。平成10年7月に「釜石虎舞」として、市の無形文化財に指定された虎舞の一つです。

白浜虎舞好友会

白浜虎舞は昭和55年頃、鶴住居虎舞の指導を受けて発足しました。演目には、矢車、はね虎、笹ばみなどがあり、ほかの地域同様に、漁師たちの航海の安全と操業の無事、大漁を祈願して奉納されています。

向川原虎舞（大槌町）

昭和23（1948）年、郷土芸能を通じて青少年の健全育成を図るため、向川原地域の青年会活動に取り入れたのが始まりとされます。東日本大震災大津波により殆どの道具を流失し、会員数名を失いましたが、各方面からの支援により道具を整備し再開しました。

只越虎舞

只越虎舞は、昭和20年代の初めころ、先代の故坂本軍治（さかもとぐんじ）氏によって設立されました。毎年、綿津見神社（わたつみじんじや）や尾崎神社、釜石製鉄所山神社（さんじんしゃ）の例大祭で奉納され、釜石製鉄所山神社では、年行司露払い団体として奉納しています。釜石で唯一白い虎を使っている団体でもあります。

釜石虎舞保存連合会

釜石虎舞保存連合会は、市内の7つの虎舞団体で組織され、主に市外や県外から要請があった際に各団体からメンバーを編成し、連合会として遠征しています。震災後は、大阪泉大津のだんじりや東京ドームなどで行われる各イベント会場に出向いて、支援のお礼の意味も込めて釜石虎舞を披露しました。

釜石市民ホール TETTO（テット） 岩手県釜石市大町1-1-9

